



2021秋田市 × a.woman

秋田の女性達へ「ア・ウーマン」

# 松下マルシェ

10/31 11:00~15:00

新型コロナウイルス感染予防対策のため  
事前申込制で開催しました。

秋田の働く女性たちの情報  
サイト「a.woman」との共催。  
女性起業家や女性が開発した  
製品の紹介・販売、関係企業・  
団体のPR等。



# 誰もが活躍推進フェスタ 2021 in 松下

## 開催報告書



日時 2021年10月30日(土)・31日(日)

会場 あきた文化産業施設「松下」

新型コロナウイルス予防対策を徹底しながら開催しました。

秋田市 市民生活部 生活総務課 女性活躍推進担当

### 1Fワークショップコーナー

陶器のアクセサリ絵付け体験



フルーツカッティング



フェイクスイーツ



### 屋外

Orange County



チキチキチキンキッチン



四ツ小屋地域 元気づくり協議会  
出張「せせらぎ市」



ポンレヴェック



### 2Fマルシェコーナー

蒸しぱん時



ハチトニ製パン



ホテルビ堂



フィールドキャンパス



食器のさかいだ



ルベール



ルル・クロジェ



ビーズ&ギャラリー  
Estrella(エストレージャ)



のりくらり



種と実



ふくまる堂



秋田市 市民生活部 生活総務課 女性活躍推進担当

TEL.018-888-6650 FAX.018-888-6651 Email danjyo@city.akita.akita.jp

2021年12月

セミナー 11:00~12:30 『日々の疲れを癒やすヨガ』

講師 ヨガインストラクター 鍵谷 美波さん

深い呼吸と基本のヨガのポーズで全身をほぐし、日々の健康と生活の質の向上を目指す時間となりました。参加者からは「ゆっくりできて、久しぶりに気持ちが安定了ました。」などと心身の疲れが解放されたとの声がありました。



トーク 13:30~14:50 『人生を楽しむ働き方』

ゲスト 「種と実」代表 舘岡 春香さん

コーディネーター フリーアナウンサー 大島 貴志子さん

2014年に自宅を一部改装して菓子製造業を始めました。店舗のない工房だけの設備でしたので、無添加のパンやお菓子を焼いてカフェに納品したり、イベントに出店したりしていました。

食を仕事にするきっかけは、妊娠を機に食生活を見直したことで、東日本大震災後に実家のある秋田市に避難移住してきたことでした。今と比べて無添加の食品が手に入りやすく、安全な材料を求めて納豆やお豆腐などを作っていました。手作りだと子どもにも安心して食べさせられます。

子どものおやつも毎日手作りしていましたが、1人分だけ作ることは難しく、私と同じように食品に気をつけているお母さんたちのために作って、みんなに分けられたらと思い、「種と実」のお菓子づくりを始めました。原材料をしっかりと調べて発信していましたので、アレルギーをお持ちのお子さんの家庭や、ベジタリアンのお客さまが「種と実」を選んでくれました。自分なりのこだわりや信念を持ち発信することが、お客さまとの繋がりに結び付くということを実感しました。



(種と実のブッパボウルとお弁当)

種と実の名前の由来には、食べ物はほとんど種と実からできていて、動物性食品もその動物は植物を食べて成長するので、すべての命の源かなと思っています。甘くて美味しい実のなかに守られている種が、また次の命につながる「命は喜びの真ん中」という意味や、種をまく行為は希望に満ちていると感じていて、そんな思いも込めて種と実と名乗っています。

友人の結婚式の料理の依頼を機に、徐々に料理の依頼を受けることが増えていきました。設備がなかったので、お断りするしかない状況でしたが、ご縁があってトリノス食堂での営業や、ケータリングの依頼があるときは設備を借りするという「ヤドカリ方式」で料理の仕事をしました。その中でブッパボウルなど、現在の「種と実」の目玉メニューが生まれました。



家族の生活にしわ寄せがいくことを考えると、飲食店を持つことはまったく考えませんでした。依頼を受けた時に依頼主のためだけにお料理をする、という仕事の形態を取ってきたことに満足しています。

ただ、去年からのコロナウイルスの流行によってパーティなどの仕事が減ってしまいました。このため、最近はお弁当やオードブルのオーダーを多くいただいています。仕事のスタイルは変わっても、安全で安心なお料理を食べてほしいという気持ちは変わりません。

新しく何かを始める時、不安を感じるとありますが、私独自の不安を可能に変える方法を子育ての中で学びました。子どもは希望要望、無理難題を言ってきます。私は無理に押さえるようなNOを言いたくなかったので「条件付きOK」で答えるようにしていました。「いいよ、でももうすぐご飯の時間だから、ご飯を食べたら一緒にやろうね」といった具合です。

こうした繰り返しでいつの間にか、自分の心の中の希望や要望、無理難題に対しても常に条件付きOKを出せるようになりました。やりたいことに条件付きOKを出して進み続ければ、いつか道が開けると思います。

女性は、家庭や仕事のために自分の時間が持たない、と悩むことも多いです。そんな時におすすしたいのが「目の前のことに心を込める」ということです。頼まれた仕事であっても能動的に心を込めて取り組むと、費やした時間は人のためではなく自分のための時間になると思うのです。どうせ生きるならワクワクしたいし、働くなら楽しく働きたい。だからすべて自分の考え次第ということもあるように思います。



トーク 15:30~17:00 『アキタ』×『アニメ』のチカラ

ゲスト (株)境田商事 取締役 境田 未希さん

(株)GAKIpro Astudio 取締役 渋谷 幸弘さん

コーディネーター フリーアナウンサー 武藤 綾子さん



境田さん: 大学と社会人生活を県外で過ごし、10年ほど前に秋田に戻ってきました。子ども時代を思い返すと、食器のさかいたを営む「境田のお嬢さん」というのが常について回るのが本当に嫌でした。でも、一度名古屋に住んで戻ってみると、皆さんが私の名前をすぐに覚えてくれるのが嬉しくて、私、「境田のお嬢さん」から「未希さん」にアップしたのだと思いました。秋田の狭さとか小ささが、逆に仕事をする上では強みになると感じています。

渋谷さん: 私は、勤めていた石垣プロダクションの石垣努社長(湯沢市出身)が絶対に秋田に会社を作りたいという思いを知り、その気持ちを汲んで志願して秋田に来ました。東京にこだわる気持ちはなく、1年半くらいになりますが、順応するのは早かったです。秋田に来て感じたのは、東京では感じられないようないつも気持ち良い風が吹いていることでした。

目指したポジションに就いた後、40代後半からアニメや自分の仕事が世の中の役に立っているのかと疑問に思う時もありました。震災後の避難所で、アニメを見た子どもたちが元気になる、それを見た大人も少し元気になるという話を聞いた時、自分の仕事が少しは世の中のためになっていると思えて、それまでモヤモヤしていたものがなくなりました。

境田さん: 仕事をする上で秋田の持つ可能性については、秋田の狭さ小ささというのをみんながプラスに捉えることができれば、秋田は最強だと感じます。小さいからこそ、こんなことができるだけ秋田は変われるのではないのでしょうか。

今後、商売は限られたものになっていくと思います。使いたいものを厳選することで、自分にとって価値がある買い物をすることがこれからは大事になっていくと思います。

渋谷さん: アニメ制作の世界では、コロナの影響でリモートの打ち合わせが可能になったので、東京でなくてもよくなったということがあります。制作会社が出来れば秋田でアニメが作れます。また将来は、技術の進歩で背景画を人の手で描かなくても良くなると思いますが、美術監督は必要です。我が社の全員を美術監督が出来る人材に育てたいと考えています。

境田さん: 人を育てることは難しいですね。ただ、子どもを育てるようになって分かったのは、できないことが当たり前で



【境田さんプロフィール】  
南山大学を卒業し就職。父親の病気を機に秋田市にUターンし2008年、実家である境田商事に入社。社長である母親を支え、また2児の母親として多忙な毎日を送っている。まちづくり活動にも力を注ぐ。秋田市出身。



【渋谷さんプロフィール】  
子どもの頃から絵を描くのが好きで、高校卒業後1年間絵の専門学校で学ぶ。20歳の時、石垣プロダクション(アニメ・ゲームの背景美術制作会社)に入社。アニメの背景専門の美術監督として活躍中。青森県鶴田町出身。

スタートするという。「どうしてできないの」と思わず、今ある枠の中でできることを考えたほうが良いと思います。  
渋谷さん: 秋田の魅力について考えた時、コナンの取材で全国を回って感じたことは、もう一度行きたいと思う場所は現地の人と楽しく過ごせた所なのです。また行きたくなる魅力と一緒に作りましょう、と言いたいです。

境田さん: 秋田にはあれがない、これがないもの探しをするより、できることを考えた方が早いと思います。ハロウィンなどの、私たちのまちづくり活動を見た子どもたちがいずれ秋田で働きたいと思って、好きなことが秋田でできるようになることが幸せだと思います。

渋谷さん「どんなことでも前向きに考えると楽しみとなる」  
秋田で過ごす毎日は、特別いいことはなくても楽しいです。同じやることだったら、例えば雑用でも、どれだけ早く終わらせるかとか、自分で楽しめばいいと思っています。そうして人よりちょっとでもできると、また人に頼まれて、もっとできるようになっていく、その積み重ねだと思っています。

境田さん「その日会う、今日限りの出会いをとっても大切にしようになった」  
コロナで会食や人と会えなくなって、会うという行為がものすごく貴重で、昔で言う一期一会。秋田は人が少ないからこそ、人と接触することがとても好きだと思うのです。それがその人を作るという部分につながっていくと思います

～参加者からのコメント～  
お二人は全く違う立場でしたが、動いているポジティブさの方向は同じように感じ、とても刺激となりました。メインを際立たせるような、その背景にあるものはすごく大事で、素晴らしい仕事だと思いました。

10/30土31日 秋田市文化創造館で同時開催!

秋田市女性活躍推進  
ロールモデル写真展  
秋田市で活躍する女性ロールモデル(行動や考え方など、キャリア形成の上でお手本となる方) 21名を紹介しました。

